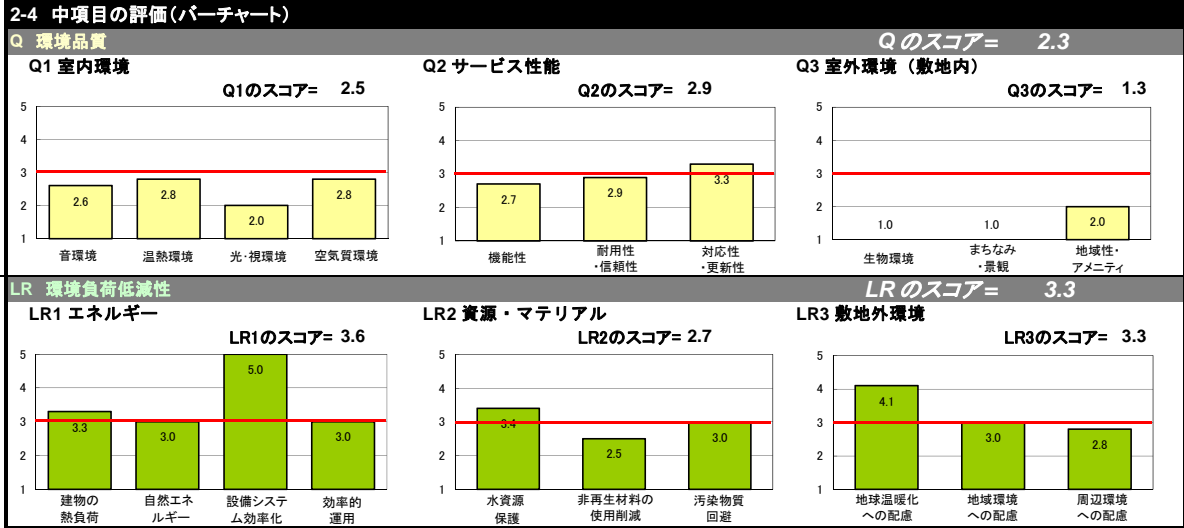
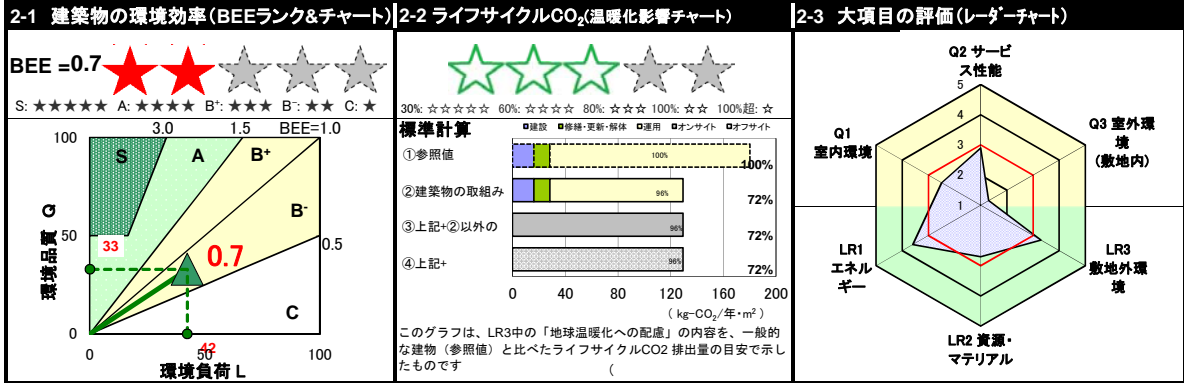


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)カーマホームセンター新城店 改築工	階数	地上2F
建設地	愛知県新城市野田字上ドドメキ1番地	構造	S造
用途地域	市街化調整地域、防火指定なし	平均居住人員	40 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,640 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年5月 予定	評価の実施日	2015年3月8日
敷地面積	5,833.69 m <sup>2</sup>	作成者	永瀬浩幸
建築面積	3,449.58 m <sup>2</sup>	確認日	2015年3月10日
延床面積	6,787.58 m <sup>2</sup>	確認者	永瀬浩幸



### 3 重点項目

①地球温暖化への配慮	4.1	③敷地内の緑化	1.0	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.0 %
②資源の有効活用	2.7	④地域材の活用	1.0	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
				<外装材に使用した地域性のある材料>	なし
				<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出  
 ④地域材の活用  
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>										<b>2.5</b>
<b>1 音環境</b>										<b>2.6</b>
<b>1.1 騒音</b>										<b>2.0</b>
1 室内騒音レベル										3.0
2 設備騒音対策										-
<b>1.2 遮音</b>										<b>3.0</b>
1 開口部遮音性能										3.0
2 界壁遮音性能										3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										3.0
<b>1.3 吸音</b>										<b>3.0</b>
<b>2 温熱環境</b>										<b>2.8</b>
<b>2.1 室温制御</b>										<b>3.0</b>
1 室温										3.0
2 負荷変動・追従制御性										-
3 外皮性能										3.0
4 ゾーン別制御性										3.0
5 温度・湿度制御										-
6 個別制御										-
7 時間外空調に対する配慮										-
8 監視システム										-
<b>2.2 湿度制御</b>										<b>2.0</b>
<b>2.3 空調方式</b>										<b>3.0</b>
<b>3 光・視環境</b>										<b>2.0</b>
<b>3.1 屋光利用</b>										<b>3.0</b>
1 屋光率										3.0
2 方位別開口										3.0
3 屋光利用設備										3.0
<b>3.2 グレア対策</b>										<b>3.0</b>
1 照明器具のグレア										3.0
2 屋光制御										3.0
3 映り込み対策										-
<b>3.3 照度</b>										<b>3.0</b>
<b>3.4 照明制御</b>										<b>1.0</b>
<b>4 空気環境</b>										<b>2.8</b>
<b>4.1 発生源対策</b>										<b>3.0</b>
1 化学汚染物質										3.0
2 アスベスト対策										-
3 ダニ・カビ等										-
4 レジオネラ対策										-
<b>4.2 換気</b>										<b>3.0</b>
1 換気量										3.0
2 自然換気性能										3.0
3 取り入れ外気への配慮										3.0
4 給気計画										-
<b>4.3 運用管理</b>										<b>2.0</b>
1 CO <sub>2</sub> の監視										1.0
2 喫煙の制御										3.0
<b>Q2 サービス性能</b>										<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>										<b>2.7</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										<b>3.0</b>
1 広さ・収納性										3.0
2 高度情報通信設備対応										3.0
3 バリアフリー計画										3.0
<b>1.2 心理性・快適性</b>										<b>2.0</b>
1 広さ感・景観										4.0
2 リフレッシュスペース										1.0
3 内装計画										1.0
<b>1.3 維持管理</b>										<b>3.0</b>
1 維持管理に配慮した設計										3.0
2 維持管理用機能の確保										3.0
3 衛生管理業務										-
<b>2 耐用性・信頼性</b>										<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>										<b>3.0</b>
1 耐震性										3.0
2 免震・制振性能										3.0
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										<b>3.0</b>
1 躯体材料の耐用年数										3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔										3.0

3.6m以上の天井高さ1F=4.5m、2F=4.0m。

②

2.4 信頼性				2.8	0.19			
1 空調・換気設備				1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				4.0	0.20			
		②	引込の2ルート化、地下空間へ非設置。					
3 対応性・更新性				3.3	0.29			3.3
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31			
1 階高のゆとり				5.0	0.60	3.0		
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0		
			階高のゆとりが3.9m以上の1F=5.34m、2F=4.56m。			3.0		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
②								
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			1.3
1 生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		1.0	0.40			1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.3
LR1 エネルギー				-	0.40			3.6
1 建物の熱負荷抑制			BEI=0.67	3.3	0.30			3.3
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			BPIを用いた場合のレベル評価が0.8以下の0.67。LED照明の採	5.0	0.30			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			2.7
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水コマと擬音装置・節水便器の採用。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63			2.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●			3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮		①	燃焼機器を使用せず、乗り入れを交通量の少ない道からとし渋滞	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用しておらず、大気汚染物質を全く発生しない。	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●		乗り入れを裏からとし、駐車場台数171台。トラック荷捌き場の計画。	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				2.8	0.33			2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				2.3	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				2.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

**重点項目スコアシート**

(仮称)カーマホームセンター新城店 改築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.7\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.1</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)カーマホームセンター新城J

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 商業施設である用途であるため、経済性に配慮しつつCO2排出量を抑えた施設となるようにしました。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建築材料は☆☆☆☆を採用。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 1.2 売場の天井高さ3.6m以上の1F=4.5m、2F=4.0m。 3.1 階高のゆとりが3.9m以上の1F=5.34m、2F=4.56m。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ピロティ(外売場)を設けて日陰の形成。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 3 LED照明を採用。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型器具(擬音装置、自動センサー小便器)の採用。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 2.1 燃焼機器は使用しておらず、外部空間に対して大気汚染物質を全く発生しない。 2.3 乗り入れを交通量の少ない道からとし、駐車場台数171台。トラック荷捌き場の計画。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。